

【主な医薬品とその作用】

※以下の設問中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「医薬品医療機器等法」と表記する。

※以下の設問中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則」を「医薬品医療機器等法施行規則」と表記する。

問61

かぜ薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑え、ウイルスを体内から除去する働きがある。

イ コデインリン酸塩水和物は、12歳未満の小児には使用禁忌となっている。

ウ かぜ薬の重篤な副作用は、配合されている解熱鎮痛成分（生薬成分を除く。）によるものが多い。

エ グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸は、化学構造がステロイド性抗炎症成分に類似していることから、抗炎症作用を示すと考えられている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問62

以下の記述にあてはまるかぜ薬の漢方処方製剤として、最も適切なものを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳^{せき}が出て身体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされるが、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感、発汗過多、全身脱力感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 葛根湯 かつこんとう
- 2 柴胡桂枝湯 さいこけいしとう
- 3 小青竜湯 しょうせいりゅうとう
- 4 半夏厚朴湯 はんげこうぼくとう
- 5 麻黄湯 まおうとう

問63

解熱鎮痛薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 痙攣^{けいれん}性の内臓痛は、発生の過程にプロスタグランジンが関わっていないため、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- イ サリチル酸ナトリウムは、一般用医薬品としては内服薬のほか、15歳未満の小児の解熱に用い^さる坐薬に配合されている場合もある。
- ウ 薏苡仁湯^{よくいにんとう}は、動悸^き、のぼせ、ほてり等の副作用が現れやすい等の理由で、のぼせが強く赤ら顔で体力が充実している人には不向きとされる。
- エ 解熱鎮痛薬を使用したときは症状が治まるものの、しばらくすると頭痛が再発し、解熱鎮痛薬が常時手放せないような場合には、薬物依存が形成されている可能性が考えられる。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問64

眠気を促す薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 高齢者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などの副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。

イ かつては不眠症や不安緊張状態の鎮静を目的にベンゾジアゼピン系成分が頻繁に用いられていたが、大量摂取による自殺が日本で社会問題になったことなどから、近年はプロモバレリル尿素の使用量が増加している。

ウ 加味帰脾湯^{かみきひとう}は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

エ カノコソウを含む製品は、医薬品的な効能効果が標榜^{ぼう}又は暗示されていなければ食品として流通可能であるが、他の鎮静作用があるとされるハーブ（セントジョーンズワート等）を含む食品を併せて摂取すると、医薬品の薬効が増強、減弱したり、副作用のリスクが高まったりすることがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問65

眠気を防ぐ薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア カフェインには、胃液分泌^{こう}亢進作用があり、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐^{おう}）が現れることがあるため、胃酸過多の人や胃潰瘍のある人は、服用を避ける必要がある。
- イ 眠気を抑える成分として、ビタミンB₁₂（シアノコバラミン等）が配合されている場合がある。
- ウ かぜ薬やアレルギー用薬などを使用したことによる眠気を抑えたい場合は、眠気防止薬を使用することが望ましい。
- エ 小児用の眠気防止薬はない。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問66

鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 抗めまい成分は、排尿困難の症状がある人や緑内障の診断を受けた人では、その症状を悪化させるおそれがある。

イ スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗ヒスタミン成分で、消化管からよく吸収され、他の抗ヒスタミン成分と比べて脳内に移行しやすいとされるが、肝臓で速やかに代謝されるため、抗コリン成分等と比べて作用の持続時間は短い。

ウ 抗めまい成分、抗ヒスタミン成分、抗コリン成分又は鎮静成分の作用による眠気を軽減させることを目的として、カフェイン（無水カフェイン、クエン酸カフェイン等を含む。）やジプロフィリンなどのキサンチン系と呼ばれる成分が配合されている場合がある。

エ 3歳未満の乳幼児が乗物で移動中に機嫌が悪くなるような場合には、乗物酔いであることが多いため、まず、乗物酔い防止薬を使用することを勧める。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問67

小児の疳^{かん}及び小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 乳児は食道と胃を隔てている括約筋が未発達で、胃の内容物をしっかり保っておくことができず、胃食道逆流に起因するむずがり、夜泣き、乳吐きなどを起こすことがある。

イ 小児の疳^{かん}は、乾^{かん}という意味もあると言われ、瘦^やせて血が少ないことから生じると考えられており、小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤には、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。

ウ カンゾウは、小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤では主として健胃作用を期待して用いられ、配合量は比較的少ないことが多いが、他の医薬品等から摂取されるグリチルリチン酸も含め、その総量が継続して多くなならないよう注意する必要がある。

エ 柴胡加竜骨牡蛎湯^{さいこかりゅうこつぼれいとう}を小児の夜泣きに用いる場合、1ヶ月位継続して服用する必要があり、症状の改善がみられないときには、いったん服用を中止して、専門家に相談する等、その漢方処方製剤の使用が適しているかどうか見直すなどの対応が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問68

鎮咳去痰薬に配合される成分及びその主な作用の関係について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	成分	主な作用
ア	トラネキサム酸	— 気道の炎症を和らげる
イ	メチルエフェドリン塩酸塩	— 気管支を拡張させる
ウ	セチルピリジニウム塩化物	— 気道粘膜からの粘液の分泌を促進する
エ	クレゾールスルホン酸カリウム	— 口腔内及び咽頭部を殺菌消毒する

1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (ア、エ) 4 (イ、ウ) 5 (ウ、エ)

問69

鎮咳去痰薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア ジプロフィリンは、中枢神経系に対する作用がメチルエフェドリンサッカリン塩に比べて強いとされ、依存性がある。
- イ 甘草湯のエキス製剤は、乳幼児にも使用されることがある。
- ウ ゴミシは、マツブサ科のチョウセンゴミシの果実を基原とする生薬で、去痰作用を期待して用いられるが、鎮咳作用は期待できない。
- エ 鎮咳去痰薬に解熱成分は配合されておらず、発熱を鎮める効果は期待できない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問70

口腔^{くわう}咽喉^{そう}薬、含嗽^{そう}薬及びそれらの配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 水で用時希釈して使用する含嗽^{そう}薬は、調製した濃度が濃いほど高い効果が得られる。

イ 口内炎などにより口腔^{くわう}内にひどいただれがある人では、配合成分が循環血流中へ移行することにより全身的な影響が生じやすくなる。

ウ 白虎加人参湯^{びやっこかにんじんとう}は、体力に関わらず使用でき、喉が腫れて痛み、ときに咳^{せき}がでるものの扁桃炎^{へん}、扁桃周囲炎^{へん}に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、食欲不振、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

エ ヨウ素は、レモン汁やお茶などに含まれるビタミンCと反応すると脱色を生じて殺菌作用が失われる。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

【主な医薬品とその作用】

問 7 1

胃腸に作用する薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 炭酸水素ナトリウムを主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料での服用は適当でない。

イ 制酸成分のうちアルミニウムを含む成分は、透析療法を受けている人が長期間服用した場合にアルミニウム脳症を引き起こしたとの報告があり、透析療法を受けている人は使用を避ける必要がある。

ウ ウルソデオキシコール酸は、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。また、肝臓の働きを高める作用もあり、特に肝臓病の診断を受けた人には積極的に用いられる。

エ オウバクが配合された健胃薬は、散剤をオブラートで包む等、味や香りを遮蔽する方法で服用すると効果が期待できず、そのような服用の仕方は適当でない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 7 2

以下の説明にあてはまる瀉^{しゃ}下成分について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 主に誤食・誤飲等による中毒の場合など、腸管内の物質をすみやかに体外に排除させなければならない場合に用いられるが、防虫剤や殺鼠^そ剤を誤って飲み込んだ場合のような脂溶性の物質による中毒には使用を避ける必要がある。

イ 一般に、腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがある。

ウ 胃や小腸で分解されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解されて、大腸への刺激作用を示すようになる。

エ 血液中の電解質のバランスが損なわれ、心臓の負担が増加し、心臓病を悪化させるおそれがある。

	ア	イ	ウ	エ
1	ハッカ油	センノシド	アズレンスルホン酸ナトリウム	硫酸亜鉛水和物
2	ハッカ油	カルメロースナトリウム	ピコスルファートナトリウム	硫酸亜鉛水和物
3	ヒマシ油	カルメロースナトリウム	ピコスルファートナトリウム	硫酸ナトリウム
4	ヒマシ油	センノシド	アズレンスルホン酸ナトリウム	硫酸ナトリウム
5	ヒマシ油	センノシド	ピコスルファートナトリウム	硫酸ナトリウム

【主な医薬品とその作用】

問 7 3

腸の薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 大腸を刺激して排便を促すことを目的として、ケツメイシが用いられる。

イ 次硝酸ビスマスは、海外において長期連用した場合に精神神経症状（不安、記憶力減退、注意力低下、頭痛等）が現れたとの報告があり、1週間以上継続して使用しないこととされている。

ウ 中枢抑制作用が減弱するおそれがあるため、ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬^{しゃ}の服用時は、飲酒しないこととされている。

エ 桂枝加芍薬湯^{けいしかしゃくやくとう}は、体力中等度以下で、腹部膨満感のあるもののしぶり腹、腹痛、下痢、便秘に適すとされる。短期間の使用に限られるものでないが、1週間位服用して症状の改善がみられない場合には、いったん使用を中止して専門家に相談がなされるなどの対応が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	誤	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	誤	誤

【主な医薬品とその作用】

問 7 4

胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。

イ パパベリン塩酸塩は、自律神経系を介した作用により、眼圧を上昇させる作用を示すことが知られている。

ウ アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。

エ 痛みが次第に強くなる、痛みが周期的に現れる、嘔吐^{おう}や発熱を伴う、下痢や血便・血尿を伴う、原因不明の痛みが30分以上続く等の場合には、基本的に医療機関を受診するなどの対応が必要である。その際、医師の診療を受けるまでの当座の対処として一般用医薬品を使用することが望ましい。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問75

^{かん}浣腸薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア ^{かん}浣腸薬を便秘以外のときに、直腸内容物の排除を目的として用いることは適当でない。
- イ 浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで小腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して、グリセリンやソルビトールが用いられる。
- ウ グリセリンが配合された^{かん}浣腸薬が、^{こう}肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- エ 炭酸水素ナトリウムは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで、直腸を刺激する作用を期待して用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 7 6

心臓などの器官や血液に作用する薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア センソは、ヒキガエル科のアジアヒキガエル等の胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬である。

イ センソは、有効域が比較的狭い成分であり、1日用量中センソ 5 m g を超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。

ウ センソは、通常用量を使用した場合においても、悪心（吐きけ）、嘔吐^{おう}の副作用が現れることがある。

エ 苓桂朮甘湯^{りょうけいじゆつかんとう}にはゴオウが含まれ、主に利尿作用により、水毒（漢方の考え方で、体の水分が停滞したり偏在して、その循環が悪いことを意味する。）の排出を促すことを主眼とする。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問 7 7

血中コレステロール、高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 低密度リポタンパク質（LDL）は、末梢組織のコレステロールを取り込んで肝臓へと運ぶリポタンパク質であり、高密度リポタンパク質（HDL）は、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。

イ 医療機関で測定された検査値として、低密度リポタンパク質（LDL）が130mg/dL、高密度リポタンパク質（HDL）が50mg/dL、中性脂肪が130mg/dLの状態は、脂質異常症という。

ウ リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがあるが、これは使用の中止を要する副作用等の異常ではない。

エ 高コレステロール改善薬は、脂質異常症の治療の他、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^{そう}瘦身効果も目的とする医薬品である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 78

貧血に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 鉄分の摂取不足を生じて、初期には貯蔵鉄や血清鉄が減少するのみでヘモグロビン量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。

イ コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB12の構成成分であり、貧血用薬には、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。

ウ 鉄剤の服用前後30分にタンニン酸を含む飲食物を摂取すると、鉄の吸収率が上がり、副作用が生じやすくなるため、服用前後はそれらの摂取を控えることとされている。

エ 貧血のうち鉄剤で改善できるのは、鉄欠乏性貧血のみである。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 7 9

循環器用薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア コエンザイムQ10は、副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐きけ、下痢、発疹・^{しん かゆ}痒みが現れることがある。
- イ ヘプロニカートは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされ、ビタミンEと組み合わせて用いられることが多い。
- ウ ^{さんおうしゃしんとう}三黄瀉心湯を使用している間は、副作用として便秘を生じやすいため、^{しゃ}瀉下薬との併用が推奨される。
- エ 高血圧や心疾患に伴う諸症状を改善する医薬品は、体質の改善又は症状の緩和を主眼としており、いずれも高血圧や心疾患そのものの治療を目的とするものではない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

【主な医薬品とその作用】

問 80

痔^じの発症、痔疾^じ用薬及びその配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の、直腸粘膜にできた痔核^じを内痔核^じと呼ぶ。直腸粘膜には知覚神経が通っていないため、自覚症状が少ないことが特徴である。

イ 局所麻酔成分は、皮膚や粘膜などの局所に適用されると、その周辺の知覚神経に作用して刺激の神経伝導を不可逆的に遮断する作用を示す。

ウ メチルエフェドリン塩酸塩が配合された坐剤^ざ及び注入軟膏^{こう}は、交感神経系に対する刺激作用によって心臓血管系や肝臓でのエネルギー代謝等に影響を生じることが考えられ、心臓病、高血圧、糖尿病又は甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。

エ 芎^{きゅう}帰^き膠^{きょう}艾^{がい}湯^{とう}は、体力中等度以下で冷え症で、出血傾向があり胃腸障害のないもの^じの痔出血、貧血、月経異常・月経過多・不正出血、皮下出血に適すとされ、胃腸が弱く下痢しやすい人でも、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れにくい。

1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問 8 1

点鼻薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア ナファゾリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を弛緩させることにより、鼻粘膜の腫れを和らげる。

イ クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を促進し、アレルギーの症状を緩和する。

ウ ベンザルコニウム塩化物は、陽性界面活性成分で、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。

エ リドカイン塩酸塩は、局所麻酔成分である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 2

鼻炎用点鼻薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸^{たけ}）となっている場合には、アドレナリン作動成分が配合された一般用医薬品の点鼻薬を使用することにより対処を図ることが適当である。

イ アドレナリン作動成分は、鼻以外の器官や臓器に影響を及ぼすことがある。

ウ 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、アレルギー性鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎^{くう}、蓄膿^{のう}症等である。

エ スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合がありますので、使用前に鼻をよくかんでおく。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 3

点眼薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 点眼薬は、通常、無菌的に製造されている。

イ 防腐剤（ベンザルコニウム塩化物）を含む点眼薬は、ソフトコンタクトレンズを装着したまま使用しても問題ない。

ウ 薬液に雑菌が混入しないようにするため、点眼の際は、容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないように注意する。

エ 薬液を結膜囊^{のう}内に行き渡らせるためには、点眼後に目頭を押さえると効果的である。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 4

眼科用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア サルファ剤は、ウイルスや真菌の感染に対して効果がある。

イ ホウ酸は、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜囊^{のう}の洗浄・消毒に用いられる。

ウ ベルベリン硫酸塩は、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を期待して配合される。

エ 涙液の主成分は、ナトリウムやカリウム等の電解質であるため、配合成分として塩化ナトリウム等が用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 5

眼科用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア グリチルリチン酸二カリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合される。
イ イプシロン-アミノカプロン酸は、目の炎症を改善する効果を期待して配合される。
ウ アズレンスルホン酸ナトリウムは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合される。
エ プラノプロフェンは、眼粘膜のタンパク質と結合して皮膜を形成し、外部の刺激から保護する作用を期待して配合される。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問 8 6

皮膚に用いる薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 表皮の角質層が柔らかくなることで、有効成分が浸透しやすくなることから、外皮用薬は、入浴後に用いるのが効果的とされる。
イ 火傷や化膿^{のう}した創傷面の消毒、口腔内の殺菌・消毒^{くう}を目的とする製品は、医薬部外品として製造販売されている。
ウ 貼付剤は、同じ部位に連続して貼付すると、かぶれを生じやすい。
エ スプレー剤やエアゾール剤を使用する場合、患部から十分離して、10秒以上同じ部位に連続して噴霧することが望ましい。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【主な医薬品とその作用】

問 87

殺菌消毒成分及びその製品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア オキシドールの殺菌消毒作用には持続性があり、組織への浸透性が高い。
イ ヨードチンキは、皮膚への刺激性が強く、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。
ウ クロルヘキシジングルコン酸塩は、一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、結核菌やウイルスに対する殺菌消毒作用はない。
エ ベンザルコニウム塩化物は、石けんと混合によって殺菌消毒効果が高くなる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 8 8

皮膚に用いる薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア カプサイシンは、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて、患部の血行を促す効果が期待されている。

イ 酸化亜鉛は、患部が浸潤又は化膿^{のう}している場合に、皮膚を保護するために用いられる。

ウ ヘパリン類似物質は、血液凝固を抑える働きがある。

エ イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 8 9

皮膚に用いられる薬に配合される抗菌成分及び抗真菌成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア バシトラシンは、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

イ スルファジアジンは、細菌のタンパク質合成を阻害することにより、抗菌作用を示す。

ウ ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることで皮膚糸状菌の発育を抑える。

エ ピロールニトリンは、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げ、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問90

毛髪用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア カルプロニウム塩化物は、頭皮の血管を収縮し、炎症を抑えることによる発毛効果を期待して用いられる。

イ ヒノキチオールは、精油成分で、抗菌、抗炎症などの作用を期待して用いられる。

ウ エストラジオール安息香酸エステルは、女性ホルモン成分の一種で、妊婦又は妊娠していると思われる女性でも使用できる。

エ カシュウは、タデ科のツルドクダミの塊根を基原とする生薬で、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

【主な医薬品とその作用】

問91

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア アラントインは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている。

イ カンフルは、冷感刺激を与えて、知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して配合されている。

ウ 口腔内に適用するステロイド性抗炎症成分を含有する歯槽膿漏薬は、その効果を十分に得るために、長期にわたって使用することが基本とされている。

エ 歯痛薬（外用）に配合されているフェノールは、粘膜刺激を生じることがあるため、歯以外の口腔粘膜や唇に付着しないように注意が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	正	誤

【主な医薬品とその作用】

問 9 2

禁煙補助剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 禁煙補助剤である咀^{そしゃく}嚼^{くう}剤は、口腔粘膜からの吸収をよくするために、速く連続的に嚙^かむこととされている。
- イ 禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めたうえで使用することとされている。
- ウ 3ヶ月以内の心筋梗塞発作がある人、重い狭心症や不整脈と診断された人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- エ 口腔^{くう}内が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔^{くう}内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは咀^{そしゃく}嚼^{くう}剤の使用を避けることとされている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 9 3

滋養強壯保健薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 医薬部外品の保健薬は、生薬成分としてジオウの配合が認められている。

イ しみ、そばかす等のような特定部位の症状に対する効能・効果については、医薬品においてのみ認められている。

ウ 一般用医薬品におけるビタミンAの1日分量は、400国際単位が上限となっている。

エ 滋養強壯を目的とする薬用酒は、アルコール含有量が少ないため、服用後に乗り物又は機械類の運転操作等を避ける必要はない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問 9 4

ビタミン成分とその主な作用に関する以下関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	ビタミン成分	主な作用
ア	ビタミンC	腸管でのカルシウム吸収を促して、骨の形成を助ける作用
イ	ビタミンE	夜間視力を維持し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つ作用
ウ	ビタミンD	体内の脂質を酸化から守る作用
エ	ビタミンB1	赤血球の形成を助け、神経の正常な働きを維持する作用

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

【主な医薬品とその作用】

問 9 5

漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 漢方薬を使用する場合は、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。

イ 用法用量において、適用年齢の下限が設けられていない場合、生後6ヶ月未満の乳児に使用しないこととされている。

ウ 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

エ 漢方薬は、すべからく作用が穏やかで、副作用は少ない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問96

漢方処方製剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 防風通聖散^{ぼうふうつうしょうさん}は、体力充実して腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなもの的高血圧や肥満に伴う動悸^き・肩こり・のぼせ^{のう}・むくみ・便秘、蓄膿症^{のう}、湿疹^{しん}・皮膚炎、ふきでもの、肥満症に適すとされる。
- イ 黄連解毒湯^{おうれんげどくとう}は、体力中等度以下で、赤ら顔で、ときにのぼせがあるもののにきび、顔面・頭部の湿疹^{しん}・皮膚炎、赤鼻に適すとされる。
- ウ 大柴胡湯^{だいさいことう}は、体力が充実して、脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- エ 清上防風湯^{せいじょうぼうふうとう}は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症に適すとされる。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

問97

生薬製剤の代表的な生薬とその目的とする作用に関する以下関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	生薬	目的とする作用
ア	ブシ	－ 心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用
イ	ブクリョウ	－ 利尿、健胃、鎮静作用
ウ	カッコン	－ 健胃、消化促進作用
エ	サンザシ	－ 抗炎症、鎮痛作用

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【主な医薬品とその作用】

問 9 8

消毒薬及び殺菌消毒成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、大部分のウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

イ イソプロパノールは、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対しタンパク質を変性させることによる殺菌消毒作用を示す。

ウ 有機塩素系殺菌消毒成分であるジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、皮膚刺激性や金属腐食性が強い。

エ 消毒薬が誤って目に入った場合、中和剤を用いる。

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

問 9 9

有機リン系殺虫成分に関する以下の記述について、()の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

有機リン系殺虫成分である(ア)は、アセチルコリンを分解する酵素(アセチルコリンエステラーゼ)と(イ)的に結合して、その働きを阻害する。高濃度又は多量に曝露した場合には、神経の異常な興奮が起こり、(ウ)、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

	ア	イ	ウ
1	プロポクスル	不可逆	縮瞳
2	プロポクスル	可逆	縮瞳
3	ジクロルボス	可逆	散瞳
4	ジクロルボス	不可逆	縮瞳
5	ジクロルボス	不可逆	散瞳

【主な医薬品とその作用】

問100

妊娠検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 採尿のタイミングとしては、尿中ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が検出されやすい夜が向いている。
- イ 採尿後数時間経過した検体を用いて検査を行っても、検査結果に影響はない。
- ウ 妊娠検査薬による検査結果をもって、妊娠しているか否かを断定することができる。
- エ 妊娠検査薬は、妊娠が成立してから4週目前後の尿中hCG濃度を検出感度としている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【薬事に関する法規と制度】

問 1 0 1

医薬品医療機器等法第 1 条の記載に関する以下の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。なお、同じ記号の () 内には同じ字句が入ります。

この法律は、医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器及び再生医療等製品の品質、有効性及び安全性の確保並びにこれらの (ア) による (イ) 上の危害の発生及び拡大の防止のために必要な規制を行うとともに、(ウ) の規制に関する措置を講ずるほか、医療上特にその必要性が高い医薬品、医療機器及び再生医療等製品の研究開発の促進のために必要な措置を講ずることにより、(イ) の向上を図ることを目的とする。

	ア	イ	ウ
1	使用	保健衛生	麻薬及び向精神薬
2	使用	保健衛生	指定薬物
3	使用	公衆衛生	指定薬物
4	販売	公衆衛生	指定薬物
5	販売	公衆衛生	麻薬及び向精神薬

【薬事に関する法規と制度】

問102

要指導医薬品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 要指導医薬品は、医師等の診療によらなければ一般に治癒が期待できない疾患（例えば、がん、心臓病等）に対する効能効果が認められている。
- イ 要指導医薬品では、注射等の侵襲性の高い使用法は用いられていない。
- ウ 要指導医薬品は、「医師若しくは歯科医師によって使用され又はこれらの者の処方箋若しくは指示によって使用されることを目的として供給される医薬品」とされている。
- エ 卸売販売業者は、配置販売業者に対し、一般用医薬品及び要指導医薬品を販売することができる。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問103

毒薬及び劇薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 毒薬又は劇薬を、18歳未満の者その他安全な取扱いに不安のある者に交付することは禁止されている。
- イ 毒薬又は劇薬を、一般の生活者に対して販売又は譲渡する際には、当該医薬品を譲り受ける者から、品名、数量、使用目的、譲渡年月日、譲受人の氏名、住所及び職業が記入され、署名又は記名押印された文書の交付を受けなければならない。
- ウ 毒薬は、それを収める直接の容器又は被包に、白地に赤枠、赤字をもって、当該医薬品の品名及び「毒」の文字が記載されていなければならない。
- エ 毒薬を貯蔵、陳列する場所については、かぎを施さなければならない。

- 1 (ア、ウ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【薬事に関する法規と制度】

問104

一般用医薬品のリスク区分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 第三類医薬品に分類されている医薬品は、保健衛生上のリスクが比較的低い一般用医薬品であるため、第二類医薬品に分類が変更されることはない。

イ 指定第二類医薬品とは、第二類医薬品のうち、「特別の注意を要するものとして厚生労働大臣が指定するもの」である。

ウ 新たに一般用医薬品となった医薬品は、承認後の一定期間、第一類医薬品に分類される。

エ 第一類医薬品には、その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生じるおそれがあるすべての一般用医薬品が指定される。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【薬事に関する法規と制度】

問105

以下の事項のうち、一般用医薬品又は要指導医薬品の直接の容器又は被包に記載されていなければならないものとして、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 製造業者の氏名又は名称及び住所
- 2 製造番号又は製造記号
- 3 要指導医薬品にあつては、「要指導医薬品」の文字
- 4 一般用医薬品のリスク区分を示す字句
- 5 指定第二類医薬品にあつては、枠の中に「2」の数字

問106

医薬部外品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医薬部外品を販売する場合には、薬局、店舗販売業又は配置販売業の許可が必要である。
- イ 医薬部外品を製造販売する場合には、製造販売業の許可が必要であり、厚生労働大臣が基準を定めて指定するものを除き、品目ごとに承認を得る必要がある。
- ウ 不良医薬部外品及び不正表示医薬部外品の販売は禁止されている。
- エ 医薬部外品の直接の容器又は直接の被包には、「医薬部外品」の文字の表示が義務付けられている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【薬事に関する法規と制度】

問107

化粧品に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 化粧品は、人の身体を美化し、魅力を増す目的の範囲内においてのみ、医薬品的な^{ぼう}効能効果を表示・標榜することが認められている。
- イ 人の身体の構造若しくは機能に影響を及ぼすことを目的とするものは化粧品に含まれない。
- ウ 化粧品を販売する場合には、薬局、店舗販売業又は配置販売業の許可は必要ない。
- エ 化粧品の直接の容器又は直接の被包には、「化粧品」の文字の表示が義務付けられている。

- 1 (ア、ウ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

問108

栄養機能食品の栄養成分と栄養機能表示に関する以下関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- | | 栄養成分 | 栄養機能表示 |
|---|--------|------------------------------------|
| ア | 銅 | — 多くの体内酵素の正常な働きと骨の形成を助ける栄養素です。 |
| イ | マグネシウム | — 腸管のカルシウムの吸収を促進し、骨の形成を助ける栄養素です。 |
| ウ | パントテン酸 | — 皮膚や粘膜の健康維持を助ける栄養素です。 |
| エ | 亜鉛 | — たんぱく質・核酸の代謝に関与して、健康の維持に役立つ栄養素です。 |

- | | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2 | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |

【薬事に関する法規と制度】

問109

これまでに認められている特定保健用食品の表示内容と保健機能成分に関する以下関係の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

	表示内容	保健機能成分
ア	おなかの調子を整える	— 大豆イソフラボン
イ	カルシウム等の吸収を高める	— フラクトオリゴ糖
ウ	骨の健康維持に役立つ	— ポリデキストロース
エ	歯の健康維持に役立つ	— エリスリトール

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 0

医薬品の販売業に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 店舗販売業の許可、配置販売業の許可又は卸売販売業の許可を受けた者は、一般の生活者に対して医薬品を販売することができる。

イ 医薬品の販売業の許可は、6年ごとに、その更新を受けなければ、その期間の経過によって、その効力を失う。

ウ 薬局で医薬品をあらかじめ小分けし、販売する行為は、無許可製造、無許可製造販売に該当するため、認められない。

エ 薬局における医薬品の販売行為は、薬局の業務に付随して行われる行為であるため、医薬品の販売業の許可を必要としない。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 1

薬局に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医療法において、調剤を実施する薬局は、医療提供施設として位置づけられている。
- イ 薬局は、その所在地の都道府県知事（その所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）の許可を受けなければ、開設してはならない。
- ウ 医薬品を取り扱う場所であって、薬局として開設の許可を受けていないものについては、病院又は診療所の調剤所を除き、薬局の名称を付してはならない。
- エ 地域連携薬局とは、患者が継続して利用するために必要な機能及び個人の主体的な健康の保持増進への取組を積極的に支援する機能を有する薬局をいう。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 2

薬局における薬剤師不在時間に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 薬剤師不在時間とは、開店時間のうち、当該薬局において調剤に従事する薬剤師が当該薬局以外の場所においてその業務を行うため、やむを得ず、かつ、一時的に当該薬局において薬剤師が不在となる時間をいう。

イ 薬剤師不在時間内は、調剤室を閉鎖しなければならない。

ウ 薬剤師不在時間内に登録販売者が販売できる医薬品は、第二類医薬品又は第三類医薬品である。

エ 学校薬剤師の業務やあらかじめ予定されている定期的な業務によって恒常的に薬剤師が不在となる時は、薬剤師不在時間に係る掲示事項を当該薬局内の見やすい場所及び当該薬局の外側の見やすい場所に掲示することで、薬剤師不在時間として認められる。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	正	正

問 1 1 3

店舗販売業に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 要指導医薬品については、薬剤師又は登録販売者に販売又は授与させなければならない。

イ 店舗管理者は、その店舗の所在地の都道府県知事（その所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）の許可を受けた場合を除き、その店舗以外の場所で業として店舗の管理その他薬事に関する実務に従事する者であってはならない。

ウ 店舗販売業者は、「その店舗を、自ら実地に管理し、又はその指定する者に実地に管理させなければならない」こととされており、その店舗を実地に管理する者は、薬剤師又は登録販売者でなければならない。

エ 薬剤師が従事している場合に限り、調剤を行うことができる。

- 1 (ア、ウ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 4

配置販売業に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 配置販売業者は、医療用医薬品を配置販売することができる。
- イ 配置販売業者又はその配置員は、その住所地の都道府県知事が発行する身分証明書の交付を受ける必要があるが、発行された身分証明書は紛失を避けるため、医薬品の配置販売に従事する際は携帯せず、事務所等に保管することが望ましい。
- ウ 薬局開設者が、配置による販売又は授与の方法で医薬品を販売等しようとする場合には、別途、配置販売業の届出をする必要がある。
- エ 配置販売業では、医薬品を開封して分割販売することは禁止されている。

	ア	イ	ウ	エ
1	誤	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 5

医薬品の陳列に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

ア 配置販売業者は、医薬品を他の物と区別して貯蔵し、又は陳列しなければならないが、第一類医薬品、第二類医薬品、第三類医薬品の区分ごとに陳列する必要はない。

イ 指定第二類医薬品は、原則として、薬局等構造設備規則に規定する「情報提供を行うための設備」から9メートル以内の範囲に陳列しなければならない。

ウ 薬局開設者又は店舗販売業者は、医薬品を他の物と区別して貯蔵し、又は陳列しなければならない。

エ 第一類医薬品は、鍵をかけた陳列設備に陳列する場合、第一類医薬品陳列区画の内部の陳列設備に陳列する必要はない。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 6

以下の事項のうち、医薬品医療機器等法及び医薬品医療機器等法施行規則に基づき、店舗販売業者が店舗の見やすい位置に掲示板で掲示しなければならないものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 店舗に勤務する者の名札等による区別に関する説明
- イ 店舗の平面図
- ウ 店舗販売業者の氏名又は名称、許可証の記載事項
- エ 取り扱う要指導医薬品の品名

- 1 (ア、イ) 2 (ア、ウ) 3 (ア、エ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

問 1 1 7

以下の成分、その水和物及びそれらの塩類を有効成分として含有する製剤のうち、濫用等のおそれのあるものとして厚生労働大臣が指定する医薬品に該当するものの正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 無水カフェイン
- イ スルファジアジン
- ウ コデイン
- エ プソイドエフェドリン

- | | ア | イ | ウ | エ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 誤 | 誤 |
| 2 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 正 | 正 |

【薬事に関する法規と制度】

問 1 1 8

特定販売に関する以下の記述のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- 1 特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告をするときは、ホームページに薬局又は店舗の主要な外観及び一般用医薬品の陳列の状況を示す写真を見やすく表示しなければならない。
- 2 特定販売を行うことについてインターネットを利用して広告をするときは、都道府県知事（その薬局又は店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。）及び厚生労働大臣が容易に閲覧することができるホームページで行わなければならない。
- 3 特定販売を行う場合には、当該薬局又は店舗以外の場所に貯蔵し、又は陳列している一般用医薬品についても販売又は授与することができる。
- 4 薬局製造販売医薬品（毒薬及び劇薬であるものを除く。）は、特定販売の方法により販売又は授与することができる。

問 1 1 9

医薬品の広告に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 医薬品の有効性又は安全性について、それが確実であることを保証するような表現がなされた広告は、明示的・暗示的を問わず、虚偽又は誇大な広告とみなされる。
- イ 承認前の医薬品については、名称に限り広告することができる。
- ウ 一般用医薬品の販売広告には、チラシやダイレクトメール（電子メールを含む）も含まれる。
- エ 漢方処方製剤の効能効果は、配合されている個々の生薬成分がそれぞれ作用しているため、それらの構成生薬の作用を個別に挙げて説明することが適当である。

- 1 (ア、ウ) 2 (ア、エ) 3 (イ、ウ) 4 (イ、エ) 5 (ウ、エ)

【薬事に関する法規と制度】

問120

医薬品の苦情相談窓口に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせを下から一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

- ア 薬事監視員を任命している行政庁の薬務主管課、保健所、薬事監視事務所等では、生活者から寄せられる一般用医薬品の販売等に関する苦情や相談内容から、薬事に関する法令への違反につながる情報が見出されることがある。
- イ 消費生活センターでは、生活用品に関する相談のみ受けつけており、医薬品に関する相談は受けつけていない。
- ウ 独立行政法人国民生活センターは、生活者へのアドバイスを行っているが、行政庁へ通報することはない。
- エ 医薬品の販売関係の業界団体・職能団体においては、一般用医薬品の販売等に関する苦情を含めた様々な相談を購入者等から受けつける窓口を設置し、業界内における自主的なチェックと自浄的是正を図る取り組みがなされている。

	ア	イ	ウ	エ
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤